

第1回荒川区地域公共交通会議

2012年2月23日(木)



荒川区シンボルキャラクター

あら坊

都市整備部都市計画課
施設計画担当

本日の内容

荒川区地域公共交通会議の設置について

道路運送法施行規則第9条における地域公共交通会議
上位・関連計画と本交通会議の関係
他区コミバス等導入状況

荒川区内の市街地及び交通網等の概況

市街地の状況、各種公共交通機関の状況
荒川区コミュニティバスさくら・汐入さくら

荒川区コミュニティバス導入可能性検討調査の報告

調査の趣旨、アンケート調査結果
新規導入ルート素案の概略について

荒川区地域公共交通会議の設置について

会議について

交通会議構成委員（道路運送法施行規則第9条に規定）

学識経験者、区民代表、運行事業者等、道路管理者、交通管理者など

会長

会長 東京大学大学院准教授 大森宣暁 先生（都市交通計画・都市計画）
中央区や練馬区の交通会議、葛飾区や台東区のバリアフリー基本構想、
国土交通省関東運輸局バリアフリーリーダー会議等に関わる

交通会議の趣旨・目的

- ・ 移動制約者等の生活交通確保に向けた新たな旅客輸送の増進を図る
- ・ 地域の実情に合う交通サービスの展開（コミバスやその他乗合輸送等）
各関係者の共通理解と課題解決へ向けた議論の場を設ける

上位・関連計画

荒川区
基本構想
(平成19年3月)

< 基本理念 >
すべての区民の尊厳と生きがいの尊重
区民の主体的なまちづくりへの参画
区民が誇れる郷土の実現

< 荒川区の将来像 >
「幸福実感都市 あらかわ」

< 6つの都市像 >
生涯健康都市 子育て教育都市
産業革新都市 環境先進都市
文化創造都市 安全安心都市

荒川区都市計画マスタープラン(平成21年3月)

荒川区バリアフリー基本構想
全体構想(平成22年3月)

重点整備地区4地区における
地区別基本構想及び特定事業計画
(平成22年度～順次策定中)

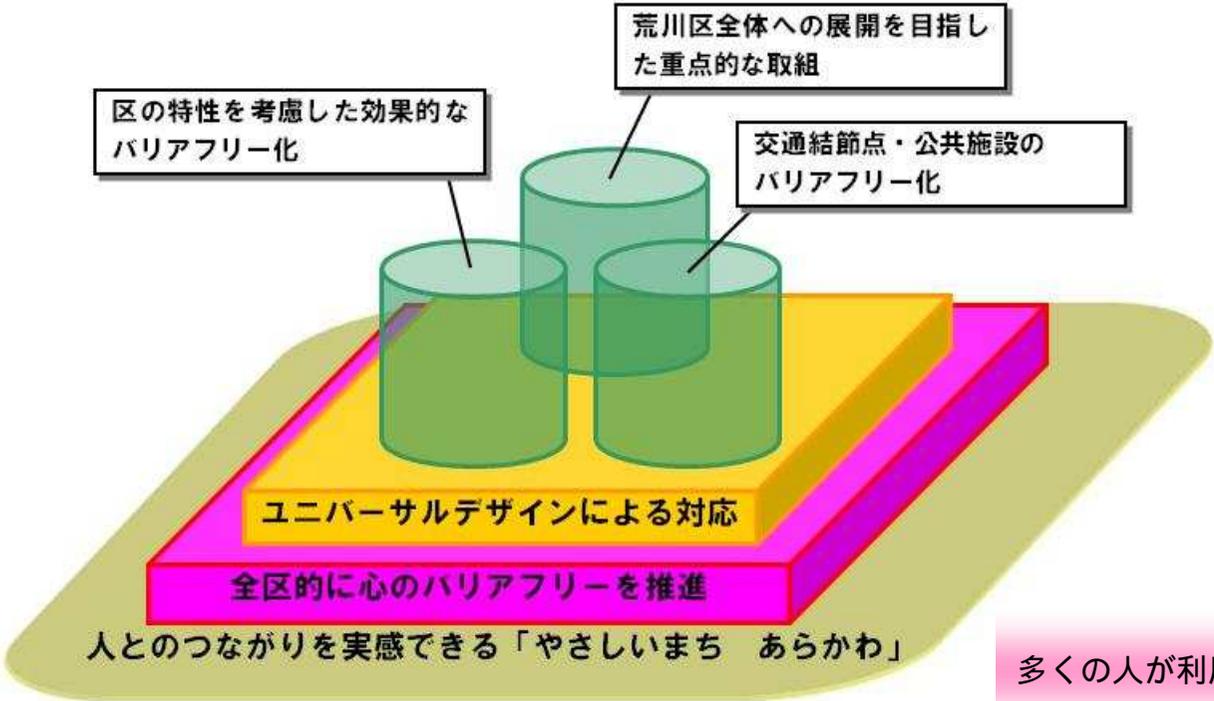
荒川区地域公共交通会議
平成23年度より

コミュニティバスさくら・汐入さくら
をはじめとする公共交通・道路交通の
整備プログラム等

上位・関連計画

荒川区バリアフリー基本構想

人とのつながりを実感できる「やさしいまち あらかわ」



基本方針 1
心のバリアフリーの推進

基本方針 2
ユニバーサルデザインによる対応

基本方針 3
多くの人が利用する交通結節点や公共施設等のバリアフリー化の推進

基本方針 4
区の特徴を考慮した実現性が高く効果的なバリアフリー化の推進

基本方針 5
区全域におけるバリアフリー化を目指した重点的な取組

重点整備地区



上位・関連計画

< 荒川区の将来像 >

バリアフリー基本構想との連携
高齢者・障がい者・子育て世代等への
生活交通手段の提供
交通結節点強化の推進
既存バス等との役割分担

荒川区バリアフリー基本構想
全体構想(平成22年3月)

重点整備地区4地区における
地区別基本構想及び特定事業計画
(平成22年度～順次策定中)

荒川区地域公共交通会議
平成23年度より

コミュニティバスさくら・汐入さくら
をはじめとする公共交通・道路交通の
整備プログラム等

23区の状況

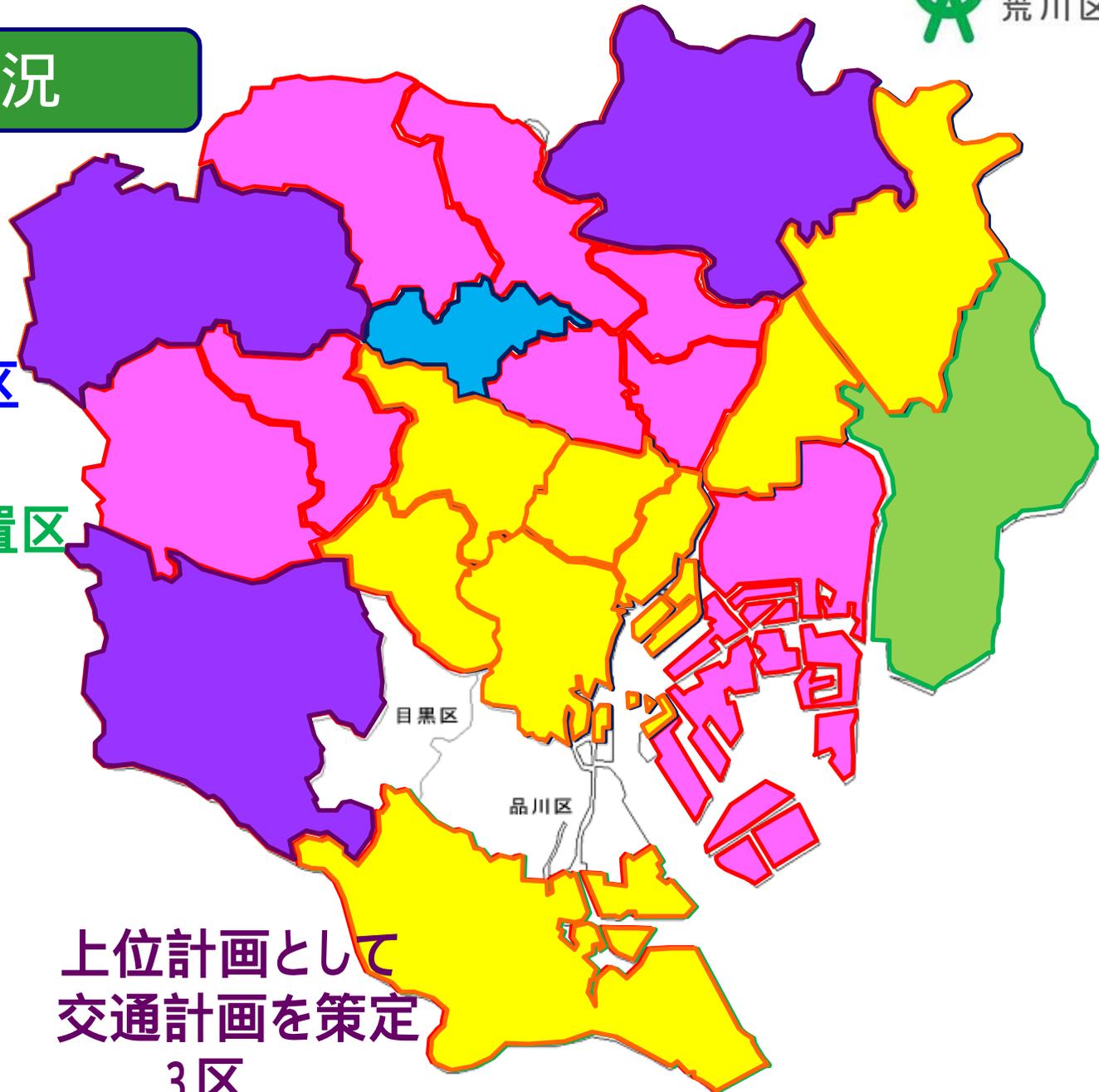
コミバス導入区
19区

交通会議設置区
10区

法定協議会設置区
10区

会議体を通じて
導入:10区

上位計画として
交通計画を策定
3区



各区の導入状況

各区HP等から抜粋



北区「Kバス」



千代田区「かざぐるま」



台東区「めぐりん」



練馬区「みどりバス」



葛飾区「さくら」



中央区「B～ぐる」



港区「ちいバス」

荒川区内の市街地及び交通網等の概況

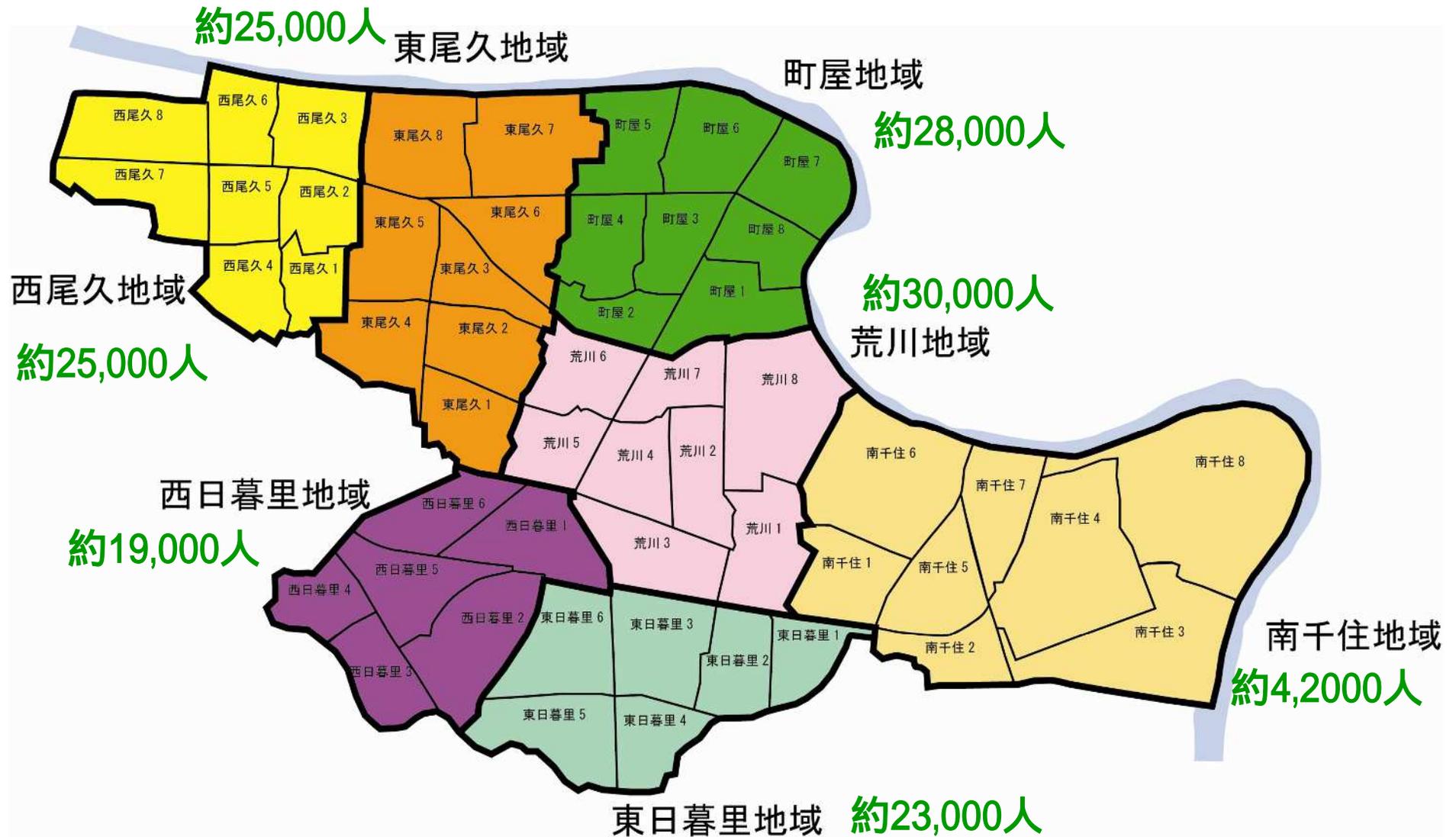
荒川区の概要

23区内で3番目に小さい
密集市街地が多い
いわゆる東京の下町



総面積：10.20km²
総人口：約205,800人
高齢化率：約22.6%
(平成24年1月現在)

荒川区の概要



外国人登録除く概算人数

荒川区の概要



凡 例

— ハリアフリー整備完了路線
 — 歩道整備完了路線
 — ハリアフリー整備予定路線

荒川区の概要

市街地内部の様子

車両が通過できない細街路



区交通概要



荒川区の概要



荒川区の概要

荒川区コミュニティバス「さくら」「汐入さくら」



現在の車両（日野ポンチョヨロング）
33人乗り

以前の車両（日野ポンチョヨ旧式）
19人乗り



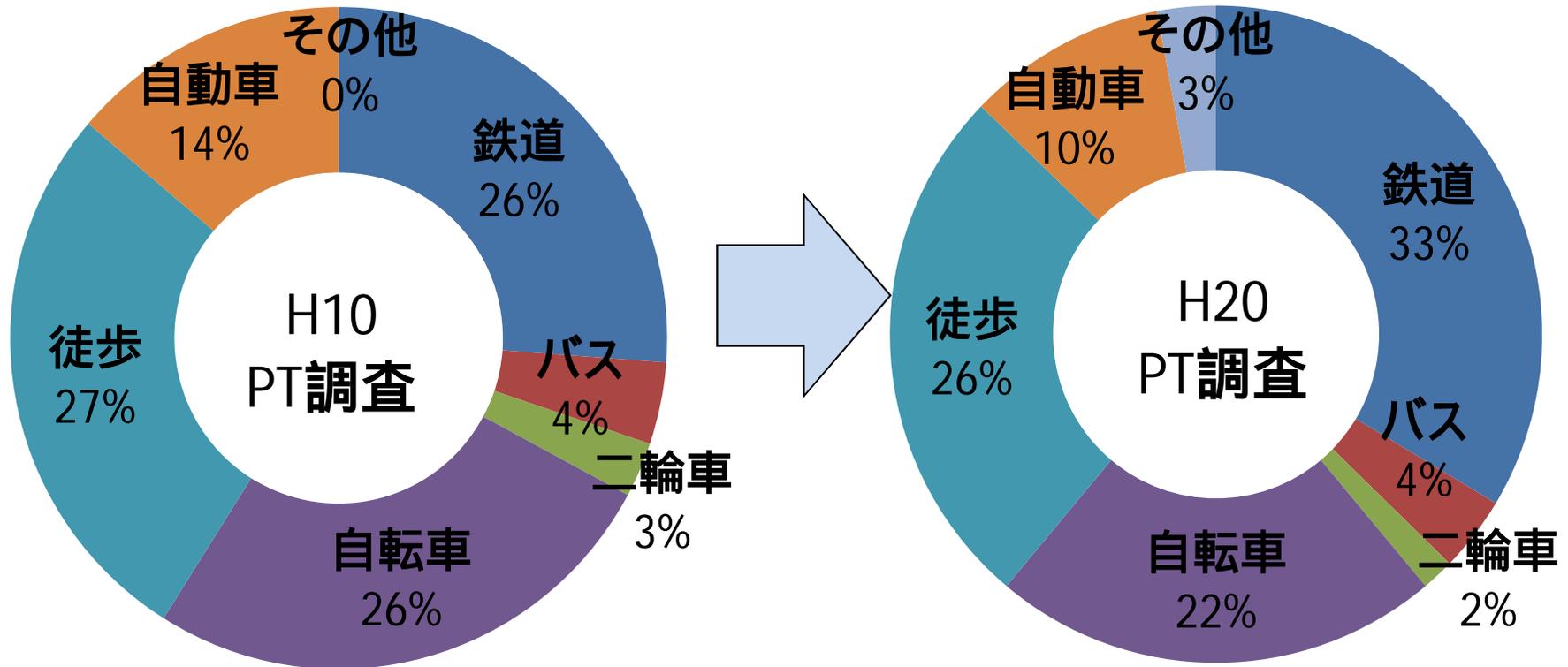
コミュニティバスさくら
平成17年4月から運行開始

コミュニティバス汐入さくら
平成20年10月から運行開始

荒川区コミュニティバス 導入可能性検討調査の報告

PT調査では・・・

主な交通機関分担率



参考資料: H10年及びH20年東京都市圏PT調査より (図は総トリップ)

約半数が徒歩・自転車・・・今後高齢者の交通対策は??

アンケート概略

調査概要

調査対象者・調査方法

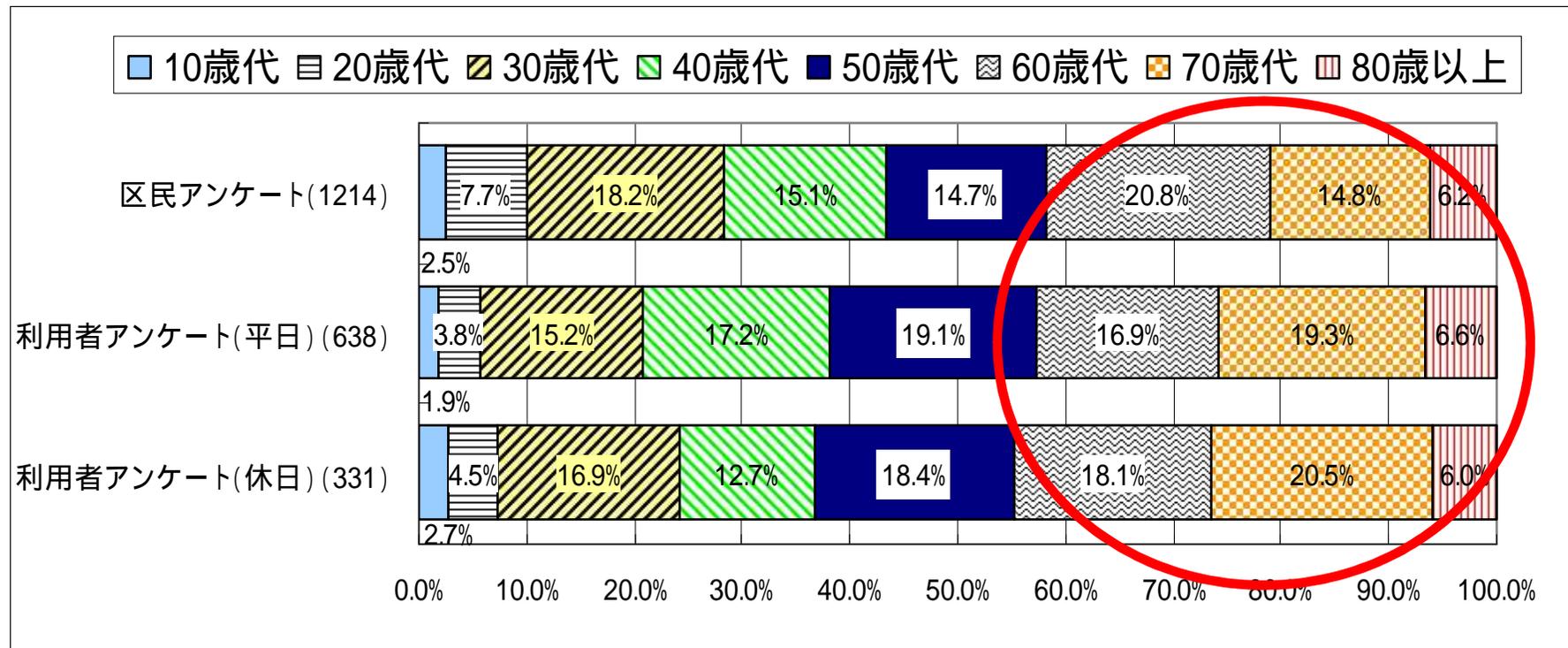
- 一般区民** : 住民基本台帳から無作為抽出した15歳以上の区民 3,000名
郵送配布・郵送回収
- さくら利用者** : 「さくら」の各ルートの利用者を対象にアンケート調査票を
配布し、郵送にて回収
平日は平成21年9月3日(木)・4日(金) (1,412通)
休日は9月5日(土)・6日(日)に調査を実施 (902通)
配布場所：南千住駅西口・東口
町屋駅(01系統、02系統)、区役所(平日のみ)

回収状況

- 一般区民 : 有効回答率 1,226通(40.8%)
- さくら利用者 : 有効回答率 648通(45.9%) 平日
332通(36.8%) 休日

アンケート概略

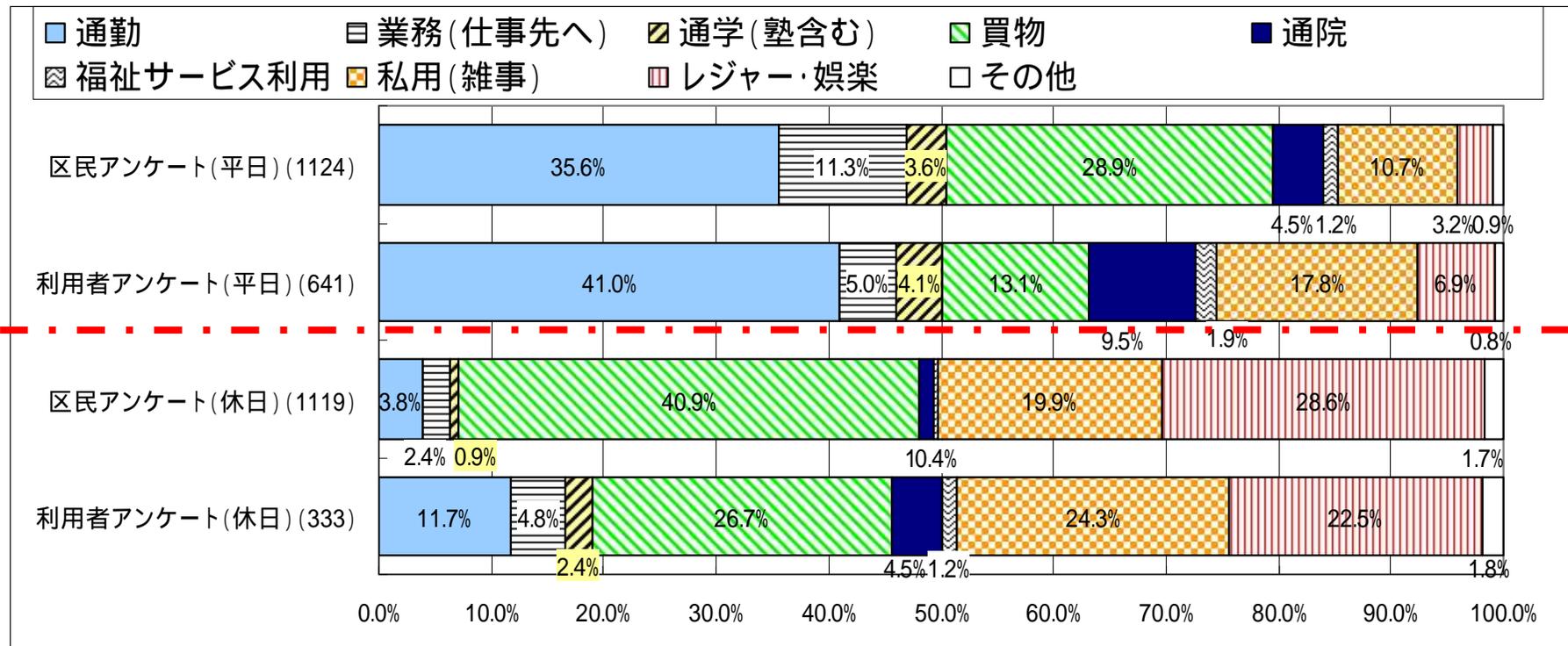
回答者年齢層



アンケート概略

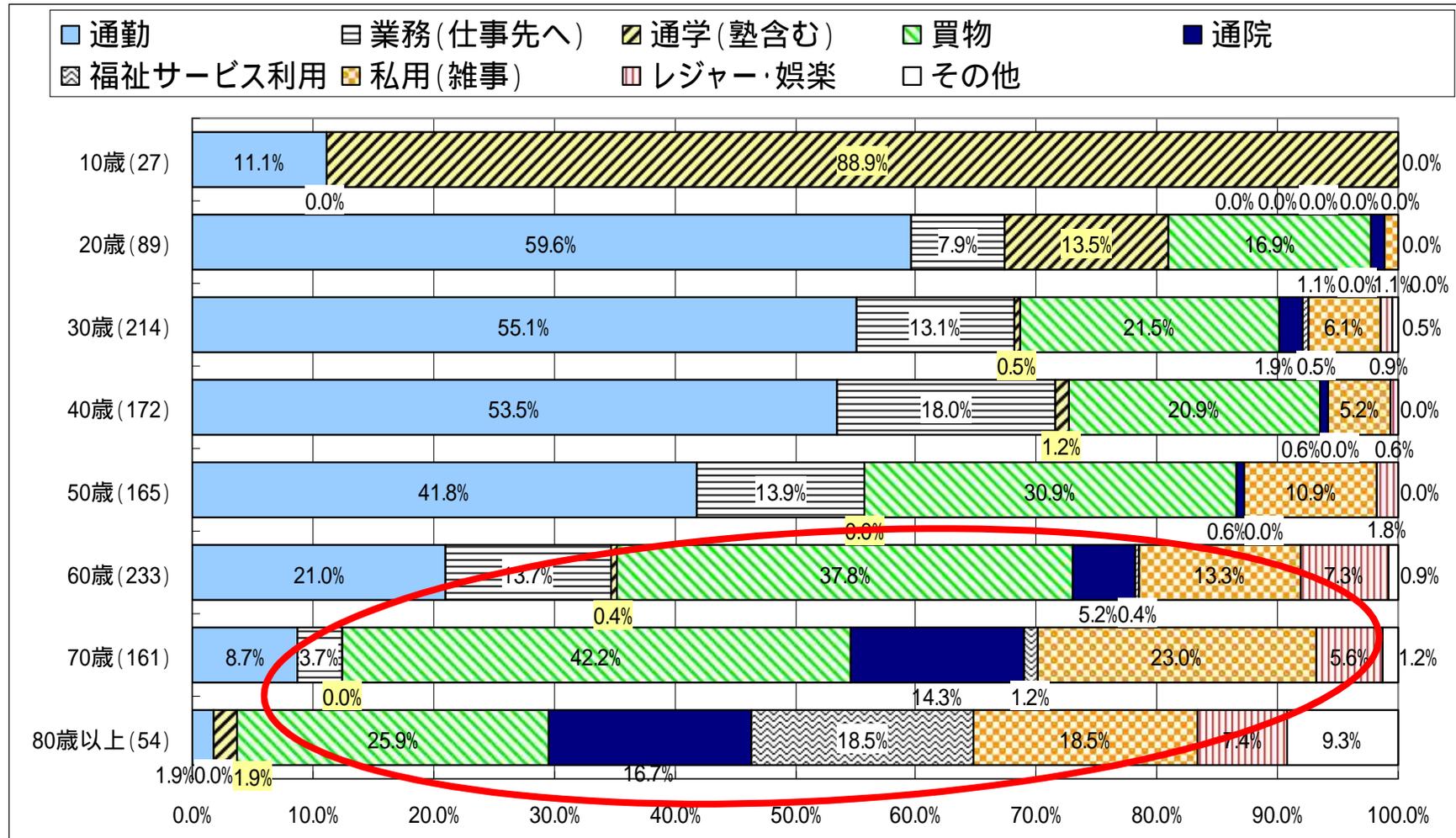
さくら利用時の主な目的

平日は通勤等が中心
 休日は買い物、私用、レジャー・娯楽



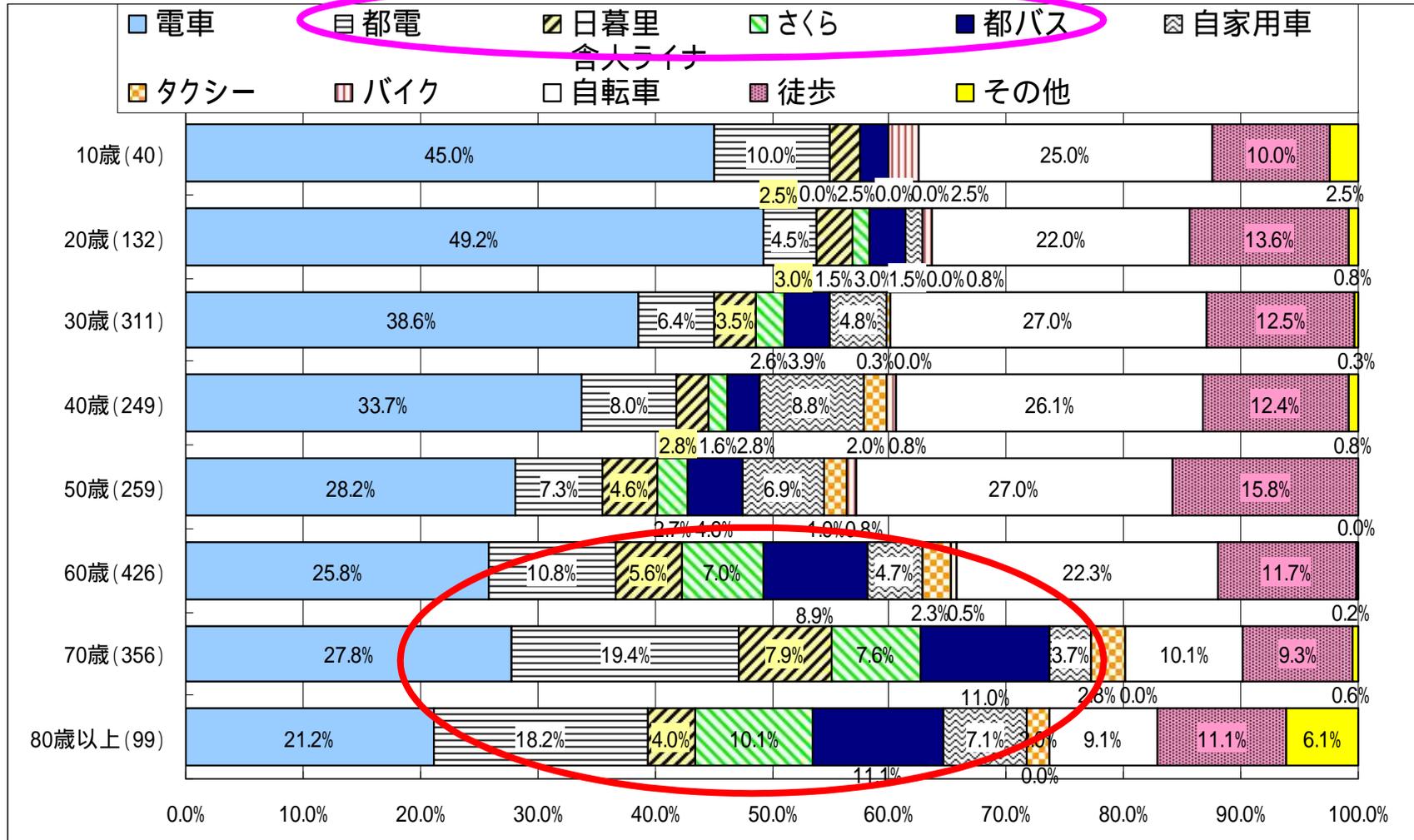
アンケート概略

年齢別利用目的(平日)



アンケート概略

年齢別交通手段選択(平日)



地域交通の役割

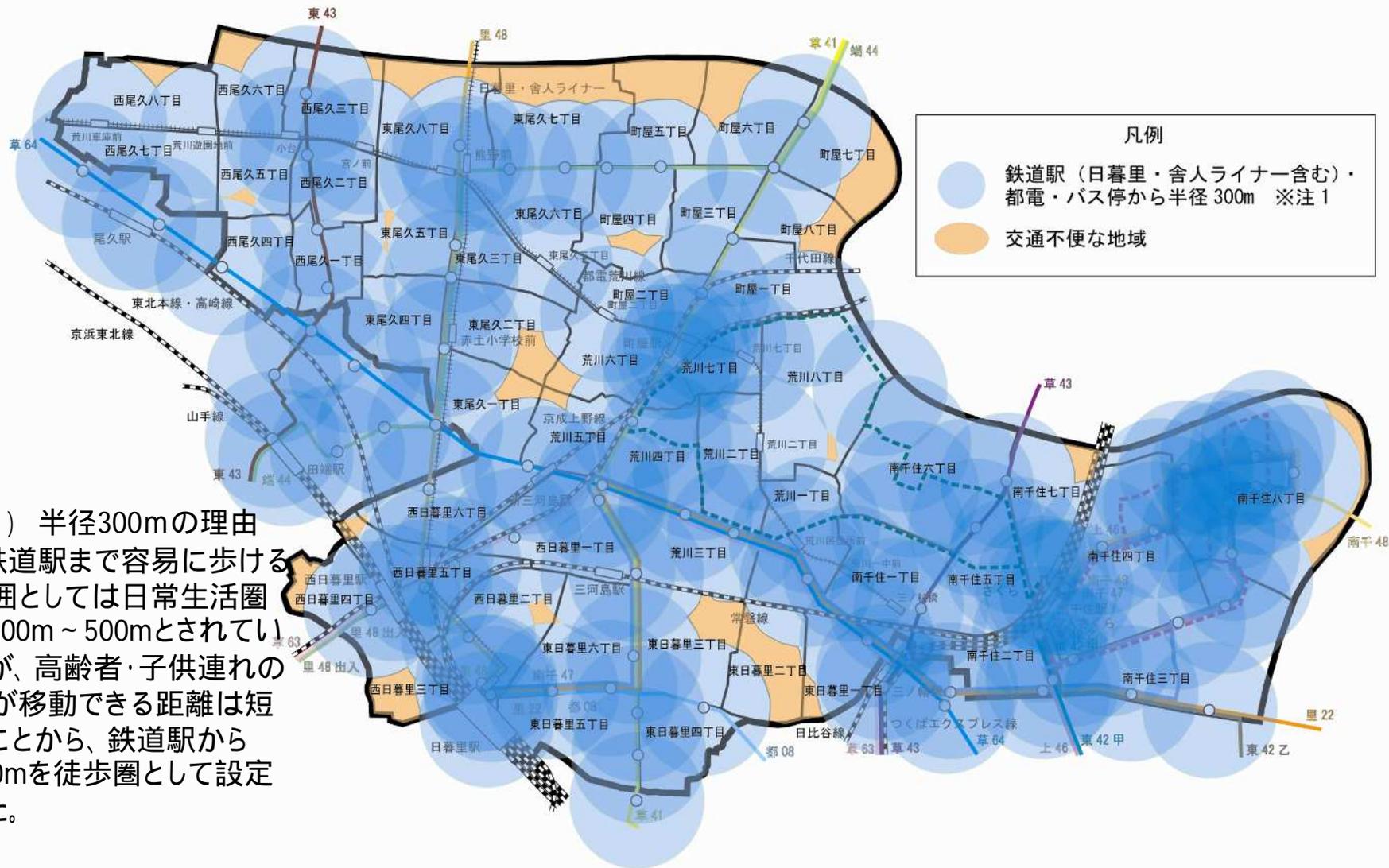
輸送密度(人/km/片道・日)

都市交通手段の適合範囲 (コミバス等地域交通の役割は??)



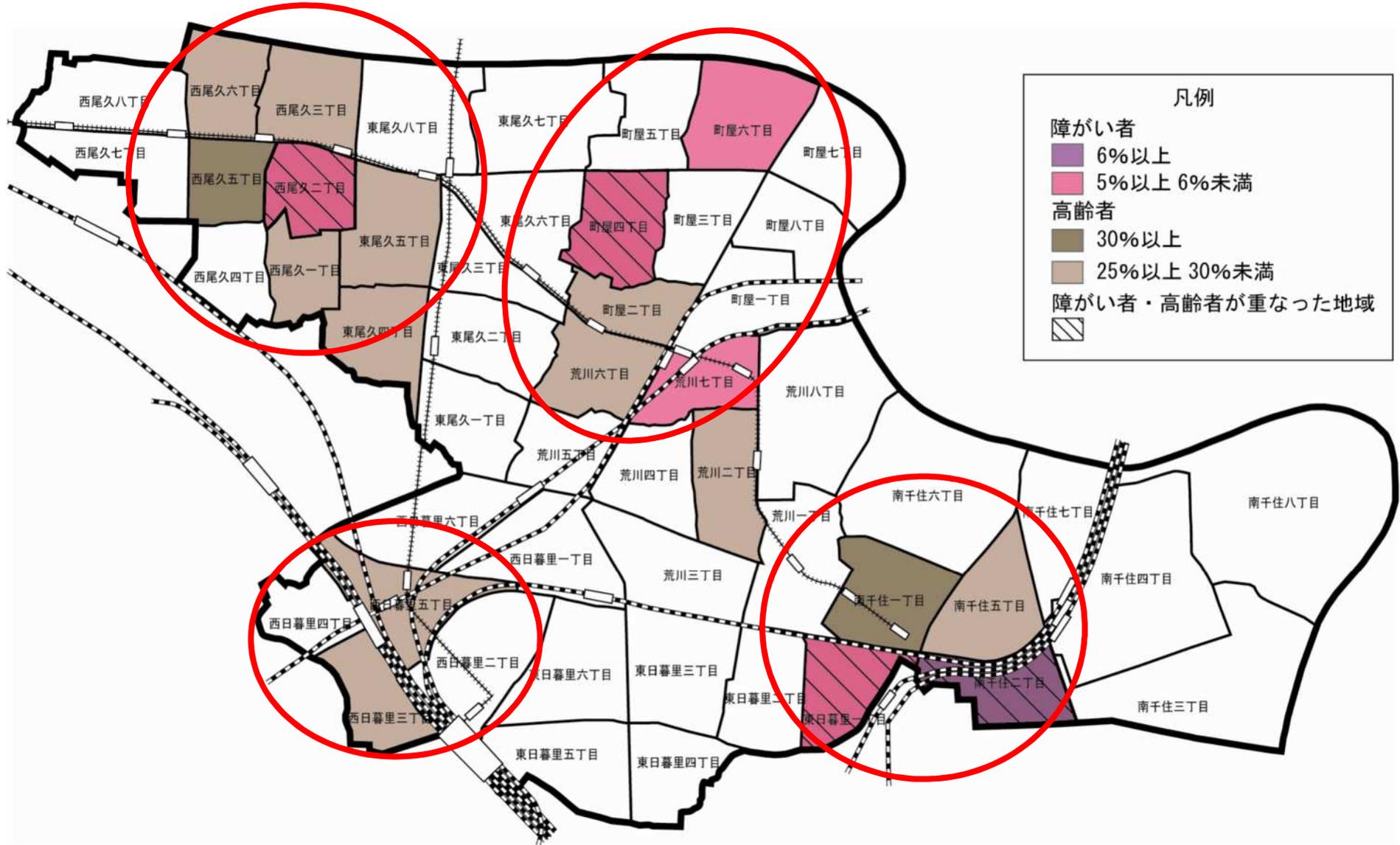
出所:「これからの都市交通」都市交通研究会、山海堂

駅勢圏の様子



注1) 半径300mの理由
 鉄道駅まで容易に歩ける範囲としては日常生活圏で400m～500mとされているが、高齢者・子供連れの方が移動できる距離は短いことから、鉄道駅から300mを徒歩圏として設定した。

高齢化等の様子



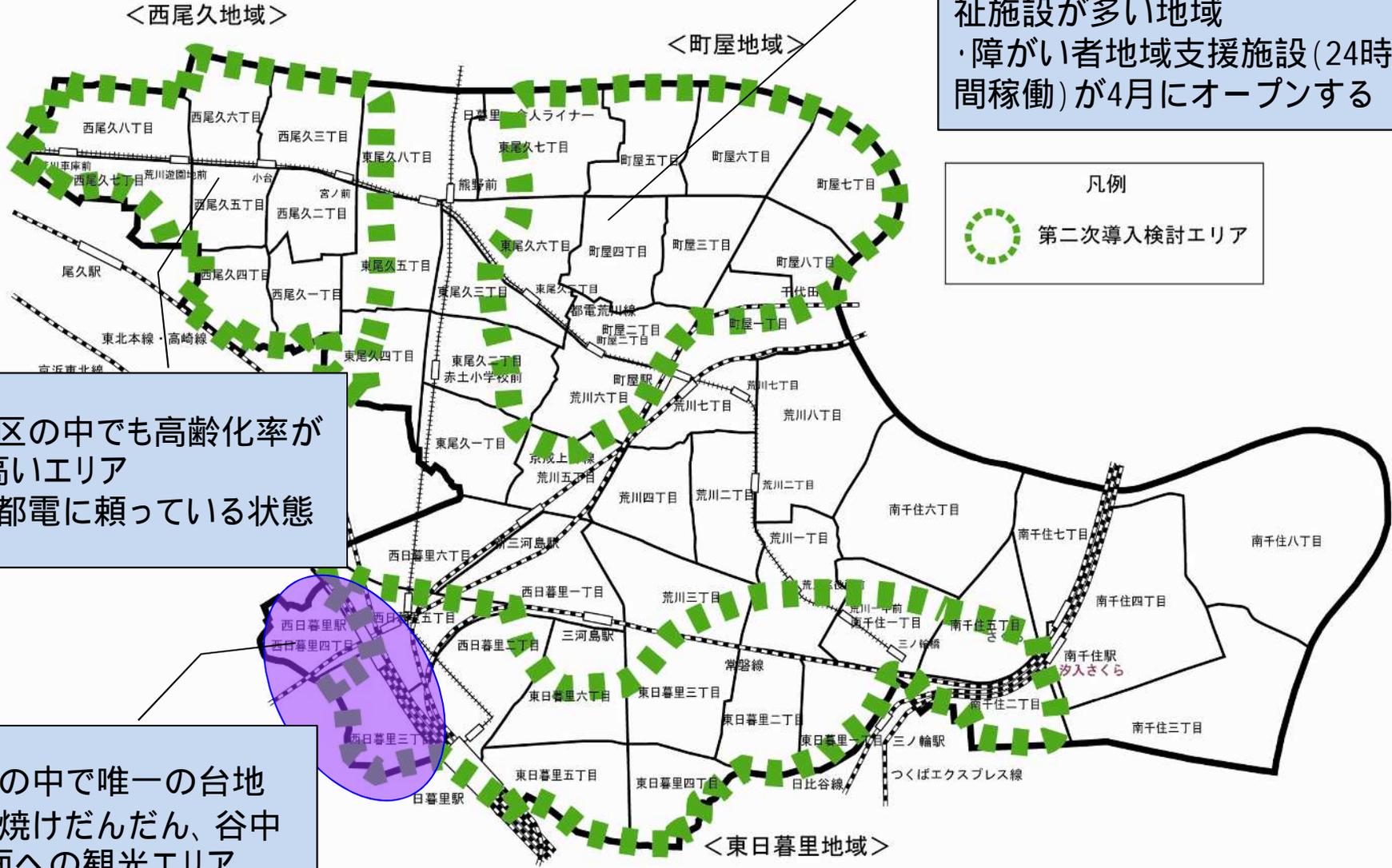
第2次エリア

- ・100世帯以上の集合住宅、福祉施設が多い地域
- ・障がい者地域支援施設(24時間稼働)が4月にオープンする

凡例
 第二次導入検討エリア

- ・区の中でも高齢化率が高いエリア
- ・都電に頼っている状態

- ・区の中で唯一の台地
- ・夕焼けだんだん、谷中方面への観光エリア



抽出ルート案

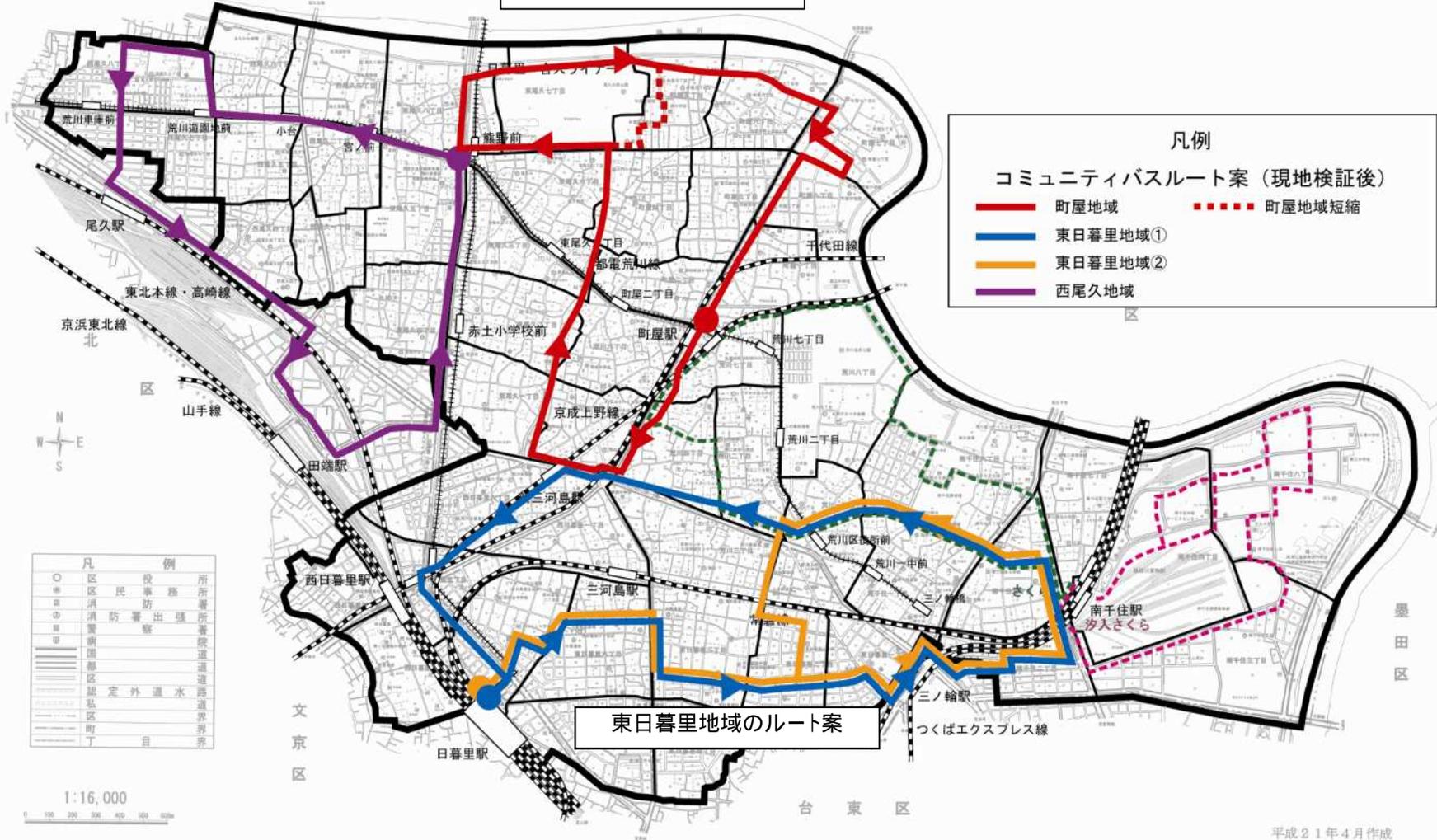
西尾久地域のルート案

町屋地域のルート案

凡例

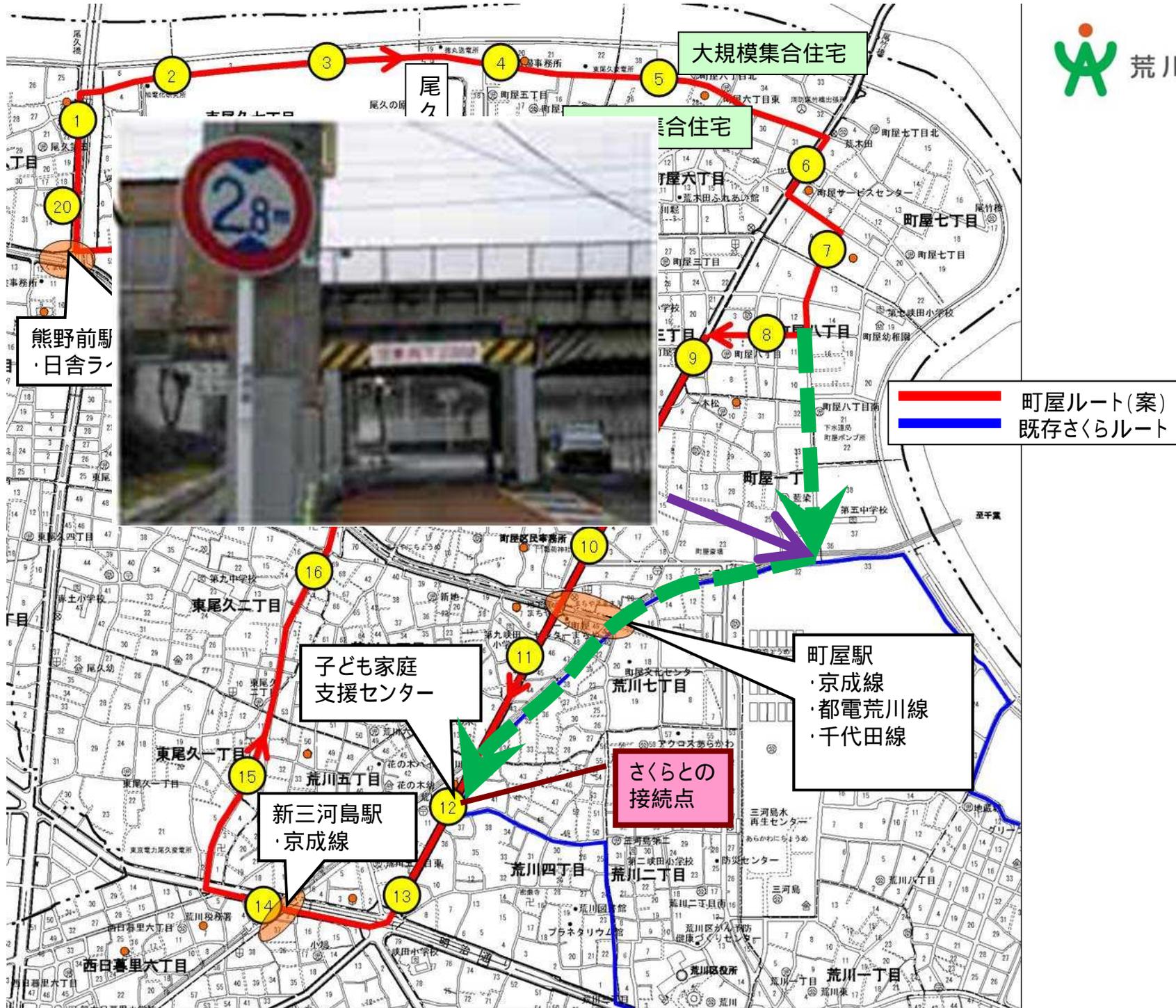
コミュニティバスルート案（現地検証後）

- 町屋地域
- 東日暮里地域①
- 東日暮里地域②
- 西尾久地域
- - - 町屋地域短縮



東日暮里地域のルート案

平成21年4月作成



今後の予定

今後地域交通の維持・発展に向けての課題

新規導入ルート案の内容調整について

- ・ バス停位置の状況整理について
地先との関係、バス停数等について
- ・ 都営バスさんとのバスネットワークについて
結節点等におけるバス乗り換えの課題など

次回第2回の交通会議の予定は

3月21日・22日・23日のいずれかで調整

END

< お問合せ >

荒川区都市整備部都市計画課

施設計画担当